

1. 授業の概要(ねらい)

金融という言葉はポピュラーな言葉ですが、いざ、その仕組みや役割を改めて問われると答えに詰まる人も多いのではないのでしょうか。普段意識されにくいところですが、実は、金融システムは目には見えない形で我々の生活に極めて大きな影響を与えています。金融システムがなければ実現されなかったサービスも数多くありますし、逆に、このシステムで起きた問題が実社会に大きな影響を及ぼしたこともあります。このように極めて大きな影響力があるのに、あまりその実態が知られていない金融システムについて、どんな仕組みでどんな働きをしているのか、我々の生活の周辺、企業活動から始めて、金融機関の働き、さらには国際経済、等の様々なスケールにおける仕組みや働きについて理解を深めることが、本講義金融論IIと金融論Iの目的になります。

なお、「お金」それ自体には意思などはないので、金融システム上の取引には必ず「誰か」の「意思」が働いています。本講義では、誰かどのような動機でお金を移動や交換しているのか、という、参加者が「誰」で、どんな「動機付け」があるか、という2点について特に強調して講義するつもりです。

2. 授業の到達目標

社会における金融システムの位置づけを理解し、それを応用して現実の経済の動きや背景にある動機を説明できることを到達目標とします。

3. 成績評価の方法および基準

毎回の宿題(20%)中間テスト(40%)期末テスト(40%)で評価する。宿題の提出状況や中間テストの受験状況によっては、期末テストの受験資格を与えないので、注意すること。

4. 教科書・参考文献

参考文献

田淵直也 金融の基本 日本実業出版社

藤木裕 金融の基礎 東洋経済新報社

5. 準備学修の内容

LMSに授業を聞いていれば容易に解答できるレベルの復習テストをアップロードするので、次の講義までに解答しておくこと。

6. その他履修上の注意事項

金融論Iの内容の理解を前提とするので、「金融論I」との連続受講を強く薦めます。

また講義ガイダンスでも強調しますが、講義中の私語など、他の受講生に迷惑を掛ける行為があった場合には、成績評価に際して大幅減点、あるいは不合格とすることがあります。

7. 授業内容

- 【第1回】 講義ガイダンス
- 【第2回】 金融論I 振り返り、金融システムの役割 詳細
- 【第3回】 資本市場とは
- 【第4回】 債権市場とは
- 【第5回】 複式簿記的考え方の復習
- 【第6回】 金融システムの役割(信用創造)
- 【第7回】 金融システムの役割(中央銀行)
- 【第8回】 前半のまとめと中間テスト
- 【第9回】 国民経済計算、物価指数、国際収支
- 【第10回】 外国為替市場(生活に対する影響、円高・円安とは何か)
- 【第11回】 <オンライン>外国為替市場(為替レート)
- 【第12回】 金融政策の目的と手段
- 【第13回】 金融政策の効果
- 【第14回】 日銀資金循環統計
- 【第15回】 まとめと期末テスト